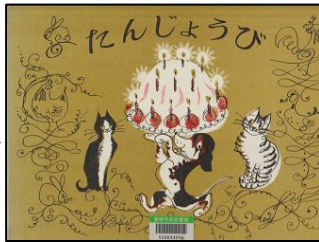


としょかんがすすめる なつやすみの本（ようじむき）

『たんじょうび』

ハンス・フィッシャー／ぶん・え
福音館書店（Eフ・タ）

リゼッテおばあちゃんの76さいのおたんじょうびのおいおいをしようと、ねこのマウリとルリ、いぬのペロは大はりきり。おばあちゃんが出てかけている間にじゅんびをしますが…！？



『ねずみのいえさがし』

ヘレン・ピアス／さく 童話屋（Eピ・ネ）

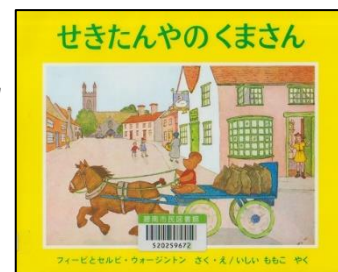
ねずみがいえをさがしています。ここがいいかな？いや、ここはさむすぎる…。ちょうどいい、いえが見つかるでしょうか。シリーズに、『ねずみのともだちさがし』『よかったねねずみさん』もあります。



『せきたんやのくまさん』

フィービとセルピ・ウォージントン／さく・え
福音館書店（Eウ・セ）

くまさんは、朝早くせきたんのふくろを荷馬車につんで、町へうりに出かけます。せきたんやのくまさんのおしごとの日一日がかかれています。



『ももたろう』

まつい だし／ぶん あかば すえきち／え
福音館書店（Eア・モ）

ももからうまれたももたろうは、にっぽんいちのきびだんごをもって、おにたいじに出かけました。とちゅうで、いぬ、さる、きじがなかまになり…。



『すぎやま 杉山きょうだいの しゃぼんだまとあそぼう』

杉山 弘之・輝行／文と構成 福音館書店（Eス）

しゃぼんだまであそぼう！はりがねやビーチサンダルでも、しゃぼんだまが作れるんだって！「上手なしゃぼん液の作り方」もっています。



『ロバのロバちゃん』

ロジャー・デュボアザン／ぶん・え
偕成社（Eテ・ロ）

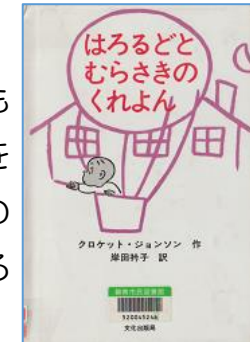
じぶんの耳がへんだとおもいこんだロバちゃん。いぬのまねをして、耳をたらしめたり、ひつじのまねをして横にしてみたりしますが…。



『はろるとむらさきのくれよん』

クロケット・ジョンソン／作 文化出版局（Eジ・ハ）

はろるとは、かくとなんでもほんもの本物になるふしぎなくれよんをもっています。ある日、月夜のさんぼをしたくなった、はろるとは、空に月をかきました。



『ガンピーさんのふなあそび』

ジョン・バーニンガム／さく ほるぷ出版（Eバ・ガ）

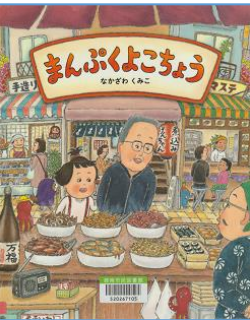
ガンピーさんがふねで出かけると、子どもたちや動物たちが「のせてください」とのりこんできました。初めのうちは、みんな楽しくのっていましたが…。



『まんぷくよこちょう』

なかざわ くみこ／作 文溪堂（Eナ・マ）

たあちゃんは、おじいちゃんともまんぷくよこちょうへ買い物にいきました。よこちょうには、おそうざい、ふくびきなど、おいしいものと、楽しいことがいっぱいです。



『ぼうがーぽんあったとさ あそびえかきうた 伝承編』

よしだ ていいち／へん しのはら よしたか／え
らくだ出版（Eシ・ボ）

「ぼうがーぽんあったとさ♪」のうたではじまる「コックさん」など、伝承のえかきうたがしょうかいされている絵本。



『ふしぎなたいこ』

石井 桃子／ぶん 清水 崑／え
岩波書店（Eシ・フ）

はなを高くしたり、低くしたりできる、ふしぎなたいこをもっているげんごろうさん。ある日、自分のはながどこまでのびるかためしてみたくって…！？



『せみとりめいじん』

かみや しん／作 福音館書店（Eカ・セ）

まだせみをとったことのないてっちゃんが、名人のこんちゃんに、せみのとりかたを教わります。よくとれるあみの作り方ものっています。せみにもくわしくなるかも？



『ちのはなし』

堀内 誠一／ぶんとえ 福音館書店（Eホ・チ）

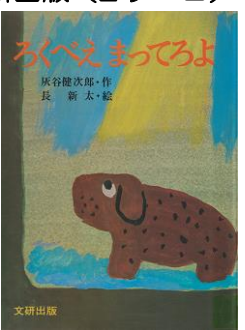
ころんですりむいたひざからちがでた！ちは、どうして赤くみえるの？ちをどうやって、体ぜんたいにおくっているの？小さい子どもにもわかるように説明されています。



『ろくべえまってるよ』

灰谷 健次郎／作 長 新太／絵 文研出版（Eチ・ロ）

あなにおちたいぬのろくべえ。助けようと、子どもたちはちえをしぼります。よいアイデアが見つかって、ろくべえを助けることができるでしょうか。



絵が主役の「絵本」から、字の多い「物語」の世界への橋渡しに…。
「幼年童話の読み聞かせ」を楽しんでみませんか。

1日1章ずつ
よむのも
いいにやご



『けんた・うさぎ』

中川 李枝子／さく のら書店
（913ナ・ケ）

こうさぎのけんたと、お母さんのやりとりを描いた短いお話が6つ。子どもが親しみやすい、日常がかかれたお話です。



『子どもに語る グリムの昔話 1』

グリム／著 こくま社
（943グ・コ1）

グリムの昔話のなかで、こえだよ、お声に出して読みやすいお話が集められています。

